

ごまで、世界をしあわせに。



「変革と挑戦！健康と笑顔を届けるNo.1を目指す！」



証券コード 2612

角かどや製油株式会社

2023年3月期 第2四半期
決算説明会

2022年11月10日（木）



決算概要について

管理本部 経理財務部長
丸林 幸司



1. 2023年3月期 第2四半期決算 (連結) 概要



2023年3月期 第2四半期決算概要（連結）

- 売上高は前年同期比で家庭用が減少も、業務用・輸出用の増加により、全体として約8億円増の171億円
- 売上原価は袖ヶ浦工場の減価償却費減少があったものの原料価格の上昇及び円安による原料代の増加、エネルギー価格上昇等による光熱費の増加により約8億円増。販管費は、新規CMの抑制等により1億円減
- その結果、営業利益は20億円（前年同期比1億円弱増）
- 経常利益は、円安により原料仕入取引及び輸出取引時にそれぞれ為替差益が発生し、前年同期比4億円強増

【連結】	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	16,391	17,164	772	4.7%
売上原価	11,027	11,854	826	7.4%
販管費	3,371	3,237	▲134	▲4.0%
営業利益 〈売上高対比〉	1,992 〈12.2%〉	2,073 〈12.1%〉	80	4.0%
経常利益 〈売上高対比〉	2,248 〈13.7%〉	2,672 〈15.6%〉	423	18.8%
当期純利益 〈売上高対比〉	1,573 〈9.6%〉	1,846 〈10.8%〉	273	17.3%

（↑22/3月期第2四半期、23/3月第2四半期期ともに「収益認識に関する会計基準」を適用した数値）

※ 金額は表示単位未満切捨て

角 2023年3月期第2四半期【ごま油】の売上について

【家庭用】

- 6月より実施した販売価格の是正の影響が大きく、売上高は、前年同期比▲4億円減
- 当社製品を使用したカフェ「goma to」のオープンやごまに関するファンコミュニティサイトである「ごまラボ」の開設等、「かどやファン」を獲得する新規施策を実施

【業務用】

- 5月より実施した販売価格の是正や外食需要の回復等により、売上高は、前年同期比3億円増

【輸出用】

- 4月より実施した販売価格の是正や円安の影響により売上高は、前年同期比7億円増

(単位：百万円)

ごま油		22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	前年同期比
	家庭用	5,793	5,324	91.9%
	業務用	3,632	3,968	109.2%
	輸出用	2,468	3,199	129.6%
全体売上		11,895	12,492	105.0%



※ 金額は表示単位未満切捨て

(↑22/3月期第2四半期、23/3月第2四半期期ともに「収益認識に関する会計基準」を適用した数値)

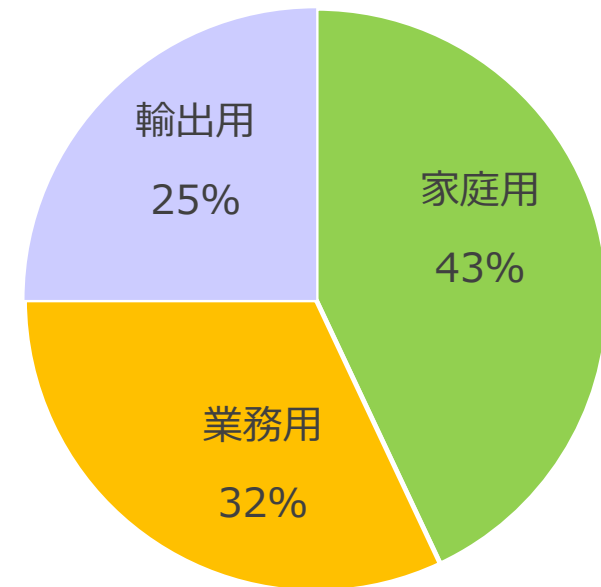
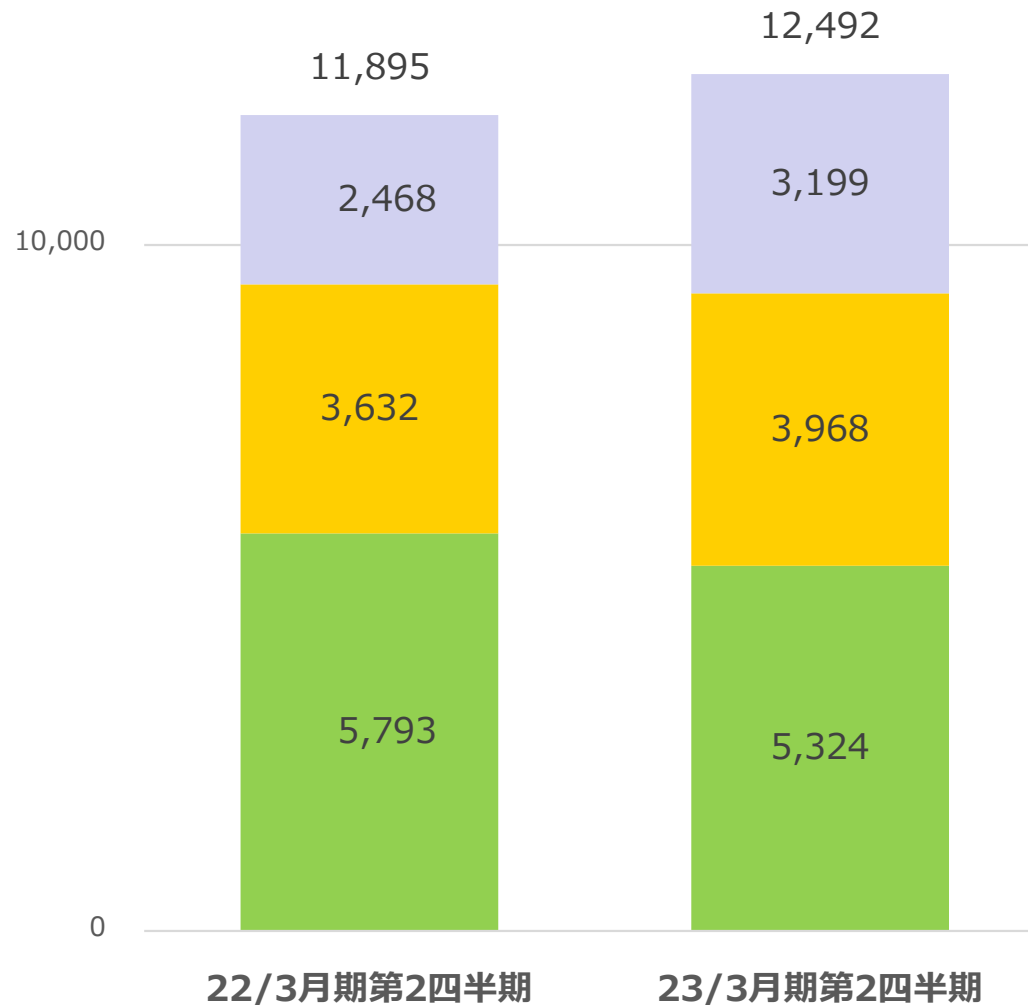


2023年3月期第2四半期【ごま油】の売上構成

【ごま油のカテゴリー別の売上高 推移】
(22/3月期第2四半期⇒ 23/3月期第2四半期)

【ごま油の売上高構成比】
(23/3月期第2四半期)

(単位：百万円)



■ 家庭用 ■ 業務用 ■ 輸出用



2023年3月期第2四半期【食品ごま】の売上について

【家庭用食品ごま】

- 外食産業の回復に伴う内食低迷により前年同期比減

【業務用食品ごま】

- 総菜向けの需要増により前年同期比増

【家庭用・業務用ねりごま】

- 総菜需要増により業務用は前年同期比増

【カタギ食品】

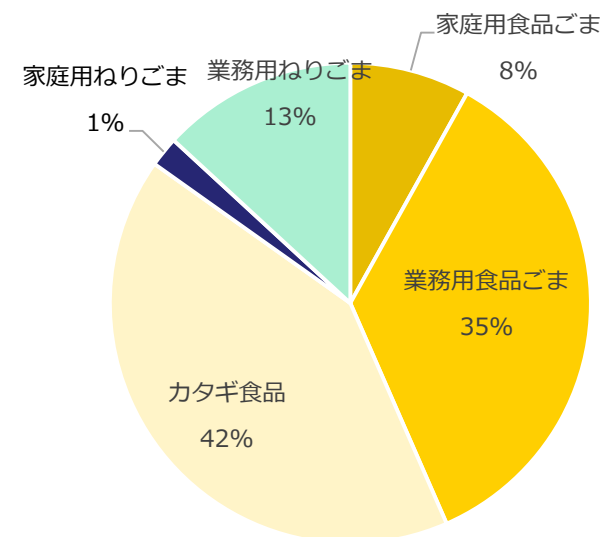
- 家庭用NBが低調、業務用の拡販でカバーも、売上前年同期比微減



(単位：百万円)

食品ごま	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	前年同期比
家庭用食品ごま	332	321	96.7%
業務用食品ごま	1,336	1,366	102.2%
家庭用ねりごま	70	60	85.7%
業務用ねりごま	506	511	101.0%
カタギ食品	1,635	1,611	98.5%
全体売上	3,880	3,871	99.7%

【売上高構成比】



※ 金額は表示単位未満切捨て

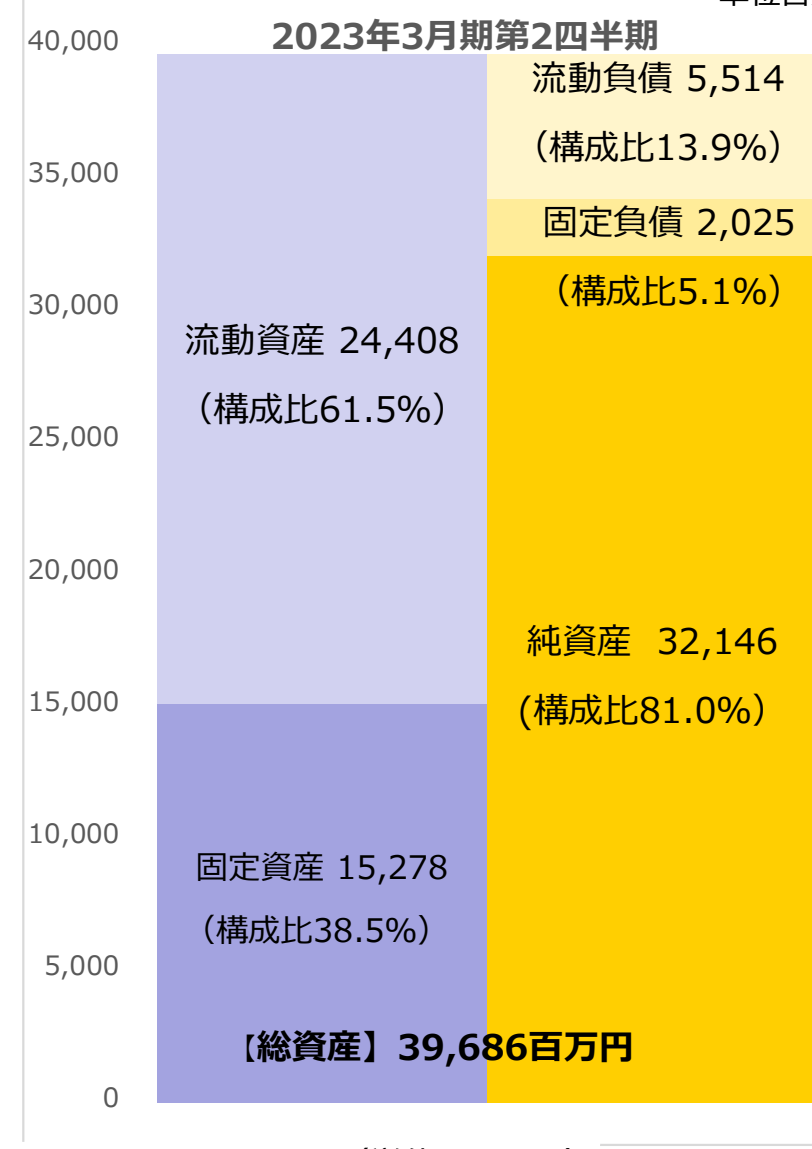
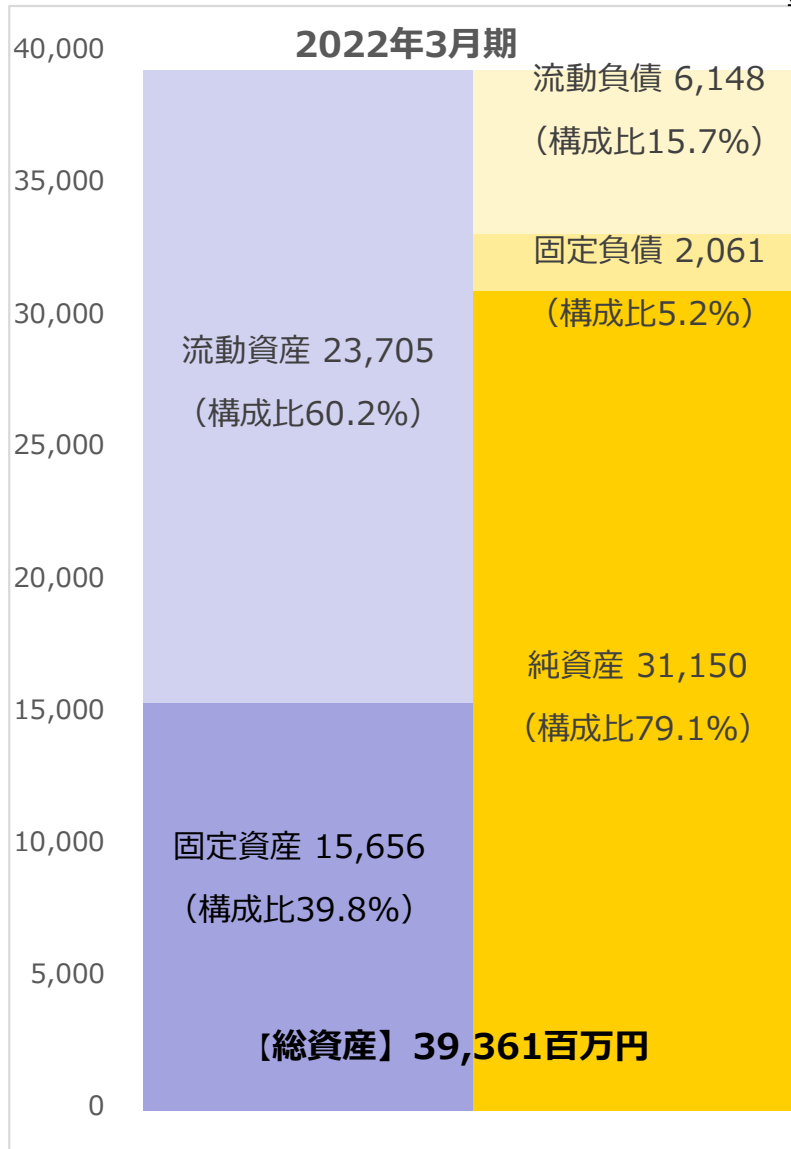
(↑ 22/3月期第2四半期、23/3月第2四半期期ともに「収益認識に関する会計基準」を適用した数値)



連結貸借対照表の比較

単位百万円

単位百万円



(増減内訳)

流動資産	702	2.9%	流動負債	▲633	▲10.3%
固定資産	▲377	▲2.4%	固定負債	▲36	▲1.7%
			純資産	995	3.1%

※ 金額は表示単位未満切捨て

合計325



2. 2023年3月期業績予想 (連結)



2023/3月期 業績予想(連結)

●期初の予想と変更なし

(単位：百万円)

	22年3月期 【実績】(※)	23年3月期 【予想】	前期比 (※)		補足
			増減金額	増減率	
売上高	32,185	33,500	1,315	4.0%	為替、エネルギー価格や販売動向などの動向が先行き不透明であり、現時点において、期初の予想と変更はありません。今後業績予想につきまして見直しが必要と判断した場合には、速やかに公表いたします。
営業利益 〈売上高対比〉	3,450 〈10.7%〉	2,500 〈7.4%〉	▲950	▲27.5%	
経常利益 〈売上高対比〉	3,968 〈12.3%〉	2,600 〈7.7%〉	▲1,368	▲34.4%	
当期純利益 〈売上高対比〉	2,769 〈8.6%〉	1,800 〈5.3%〉	▲969	▲35.0%	

【配当】23年3月期の期末配当金は「1株当たり75円」を予定

※ 金額は表示単位未満切捨て

(↑22/3月期、23/3月期ともに「収益認識に関する会計基準」を適用した数値)

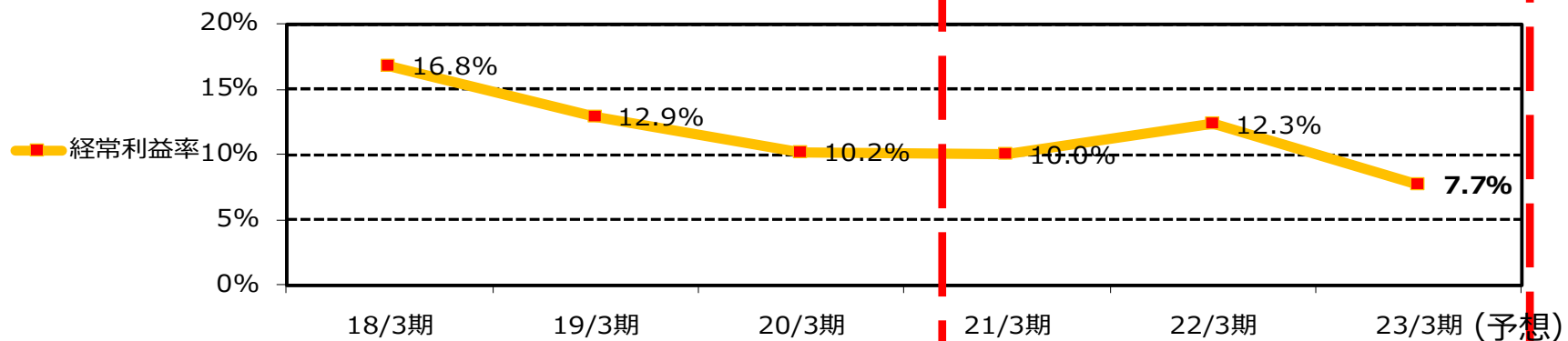
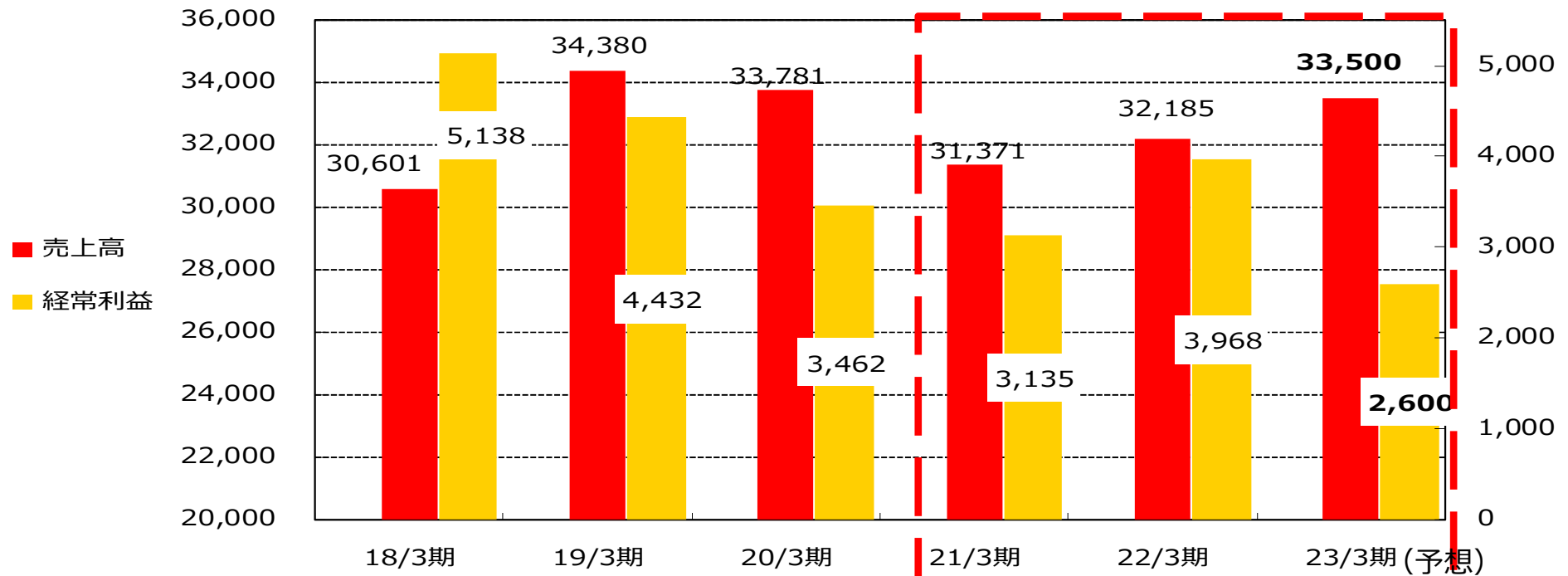
※ 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。



売上高・経常利益・経常利益率の推移（連結）

（売上高：百万円）

（経常利益：百万円）



※2018年3月期 第三四半期より連結（カタギ食品株式会社）

（21/3月期～23/3月期は、「収益認識に関する会計基準」を適用した数値）



	18/3月期	19/3月期	20/3月期	21/3月期	22/3月期
ROE (%) ※1	14.4	11.5	9.4	7.4	9.2
ROA (%) ※1	11.4	8.5	6.8	5.6	7.3
売上高 営業利益率 (%)	16.5	12.2	9.6	9.6	10.7
売上高 経常利益率 (%)	16.8	12.9	10.2	10.0	12.3
1株当たり 配当金額 (円)	150	120	110	85	110
配当性向 (%) ※2	39.9	40.0	40.6	39.0	39.8
EPS (円)	370.37	320.62	277.47	228.43	301.00

※1 1株当たり配当金／単体の1株当たり当期純利益

※2 21/3月期以降は「収益認識に関する会計基準」を適用した数値



直近状況について

(前年同期比)		2022年10月	今後の施策
家庭用	ごま油	● 6月に価格改定を実施 ● 新しい売価帯での販促が入るようになった ● 大容量商品の伸長（特に600g） ● 月毎に波はあるものの前年を下回る状況	● 8月に上市した「かどやの太白ごま油」の重点拡販 ● 「健やかごま油」の認知向上、拡販 ● 販売チャネルの拡大
	食品ごま	● 10月より価格改定を実施 ● 食品全体で値上ラッシュの状況下で販促企画が入り難くなり減少	● 価格改定（値上）の浸透 ● 継続的な店頭販促の実施、SNSを活用したメニュー提案等を継続 ● カタギ食品との情報共有、連携強化
業務用	ごま油	● 5月に価格改定を実施 ● コロナ感染第7波も落ち着き人流回復とともに外食向け需要も増加傾向 ● 前年を上回る販売状況（前年比106%）	● 業態別（市販用製造メーカー・外食向けなど）に新規メニュー、用途提案など継続 ● 値上の浸透 ● ねりごまの重点拡販
	食品ごま	● 10月より価格改定を実施 ● ねりごまについては外食チェーン向けにスポット採用があり伸長	
輸出用		● アフターコロナにおける需要は北米市場を中心に順調に回復したが、4月に実施した値上げの影響など、今後の販売動向に注視が必要	● 量販店、外食などへの提案を継続 ● ユーザー向けの提案を強化



※ご注意

当資料に記載されている内容は、資料作成時点の当社の判断に基づくものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

【お問い合わせ先】

かどや製油株式会社

〒141-0031

東京都品川区西五反田8丁目2番8号

TEL 03-3492-5545 FAX 03-3492-5985

執行役員管理本部長 高野 純平

URL <https://www.kadoya.com/>



付 属 資 料



食の安心・安全について

当社の方針・施策

- ① 食品安全マネジメントシステムFSSC22000運用
原料から最終製品まで一貫した食品安全・品質管理体制の構築・維持
小豆島工場：2015年9月6日 認証取得、2021年7月30日 更新
袖ヶ浦工場：2021年2月3日 認証取得
- ② 全社的な品質保証体制
品質保証規程を運用、全従業員・全組織で品質保証に取り組むことを規定
- ③ 原料ロット毎の分析項目の充実
公的検査機関による残留農薬検査、アフラトキシン検査の実施
- ④ 製造部門のコンプライアンス強化
製造部門に対するコンプライアンス研修、食品関連法規の勉強会
- ⑤ 品質保証部の業務拡充による品質保証体制の強化
品質保証部による対外文書の確認・承認、自社工場・製造委託先の監査

消費者の皆様に安心・安全なごま製品を提供できるよう
常に品質向上を図り、ステークホルダーの皆様のご信頼を得る



広告・P R

ファン獲得に向けた新しい体験価値の提供

5月～

ファンコミュニティサイト「ごまラボ」
2022年5月30日（月）にグランドオープン

身近な『ごま』を通じて、食生活や健康をみんなで一緒に考えたり、いろいろなことを共有できるきっかけづくりを目指しています。みなさんといっしょに、『ごま』を知り、『ごま』で楽しむ体験型のコミュニティです。



6月～

「ごま」の新たなスタンダードを提案する
初のカフェ『goma to (ゴマト)』
2022年6月17日（金）グランドオープン

『goma to』は、ごまを使ったメニューをオールデイで楽しむことができるカフェです。店名には、ごまの新しい魅力を知ってもらい、ごまと共にある食卓を創っていききたいという想いが込められています。



新商品・注力商品の認知拡大

8月

**「かどやの太白ごま油」
2022年8月1日（月）にリニューアル発売**

「かどやの太白ごま油」のパッケージ、コンセプトを含めリニューアル。汎用性の高さやさらっとした使用感を新たなコンセプトとビジュアルで展開。



9月

**「健やかごま油」、宝塚キャンペーンを
2022年9月1日（木）から開始**

更なる商品認知と拡売を目的とし、「宝塚歌劇ご招待キャンペーン」を開始。（2022年10月31日まで）ユーザーの“コレステロールへの気づき”に注目した新コンセプト「はじめドキッ」新動画も製作。



コレステロール[※] 140 超えたら はじめドキッ!





7月~

自社で培ってきた歴史に基づく信頼や安心を軸としながら、企業活動、商品情報など、積極的なPR活動の強化を開始。



テレビ局名	番組名
フジテレビ	ノンストップ!
東急グループ ケーブルテレビ	WEEKLY TOQ
テレビ朝日	グッドモーニング
TBSテレビ	Nスタ



／9月16日からSDGs週間／

通期



各媒体の特性に合わせ、ユーザーと繋がる施策を実施。
引き続き若年層をメインにアプローチ。

Instagram	13,000
LINE	83,000
Twitter	93,000
Facebook	28,000

フォロワー数、2022年9月時点





コラボレーション商品

様々なジャンルで御使用頂き、**当社ブランドの活性化と価値向上**を訴求していく

＜株式会社おやつカンパニー＞

- ・商品名：ベビースタードデカイラーメン
かどやの純正ごま油香る のりしお味、かどやの純正ごま油香る 黒こしょう味
- ・発売時期：2022年6月20日～店頭在庫無くなり次第販売終了
- ・販売地域：：全国 コンビニエンスストア、量販店、スーパーマーケットなど





通信販売限定商品

<ごまセサミン プレミアム>

発売から12年目、多くのお客様にご愛用いただいている「ごまセサミン」。
2022年10月に、従来品比2倍の30mgのセサミンを配合し、
「ごまセサミン プレミアム」として、リニューアル新発売いたしました。



2023年3月期上期実績、及び2023年3月期下期施策

①2023年3月期上期実績

ごまの健康機能の啓蒙・普及も兼ね、「ごまセサミン」を中心に新聞・WEB広告をはじめ、TV広告にてプロモーションを展開。食品関連については、ごまのおいしさを手軽に楽しめる「胡麻かりんとう（黒ごま）」、ごまとさばの持つ栄養素をおいしく摂れる「さば缶 鯖ごま油漬け」を新発売し、お客様からもご好評をいただいている。他、胡麻黒丸・胡麻白丸などへの需要も堅調に推移し、安定的に成長を続けている。

②2023年3月期下期施策

2022年10月にサプリメントをリニューアルし、積極的なプロモーションを予定している。その他、新たに上市した商品の販促も強化し、売上拡大を図る。商品開発においては、ニーズの発掘、創出をしながら、商品ラインナップの更なる拡充をしていく。通信販売を通じ、ごまの可能性と新たな魅力をお伝えし、ブランドコンセプトである「ごまで、世界をしあわせに。」を実現していく。



【新発売】ごまセサミン プレミアム



【新発売】胡麻かりんとう（黒ごま）



【新発売】さば缶 鯖ごま油漬け



胡麻黒丸・胡麻白丸詰合せ



カタギ食品について

2022年以降の商品施策



「カタギ食品が目指す7つのGOAL」 カタギ食品は有機ごまへの取り組みを通じて、持続可能社会の実現を目指します。



1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに

開発途上国での生産が主となるごまは、農家にとって重要な換金作物です。有機栽培されたごまは付加価値を生み、農家収入を向上させることができます。



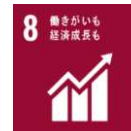
3. すべての人に健康と福祉を

有機栽培は、安心・安全に栽培管理されたごまを食することができるだけでなく、生産者が農薬からの被ばくを防ぐことができる農法です。



6. 安全な水とトイレを世界中に

化学的に合成された農薬・肥料を使用しないことで、地下水や河川を汚染する原因を軽減し、浄水設備の整っていないごま生産地での重要な水資源（地下水・河川）を守ります。



8. 働きがいも経済成長も

有機栽培は目先だけの利益では長続きしないため、生産者、加工者、流通、消費者が協力し、コストを分け合って推進していくものです。生産者の納得した買取価格が安全性の維持に繋がります。



12. つくる責任つかう責任

持続可能な生産、流通、消費のサイクルを目指し、ボタニカルインキで印刷したパッケージを採用することでCO2削減に貢献しています。



15. 陸の豊かさも守ろう

有機栽培は環境への負荷をできる限り低減した農法です。日本農林規格で禁止された農薬や化学的に合成された肥料を使用せず、自然治癒力を利用した栽培方法です。

いいもの・いつも・いつまでも 「有機ごまのパイオニア」

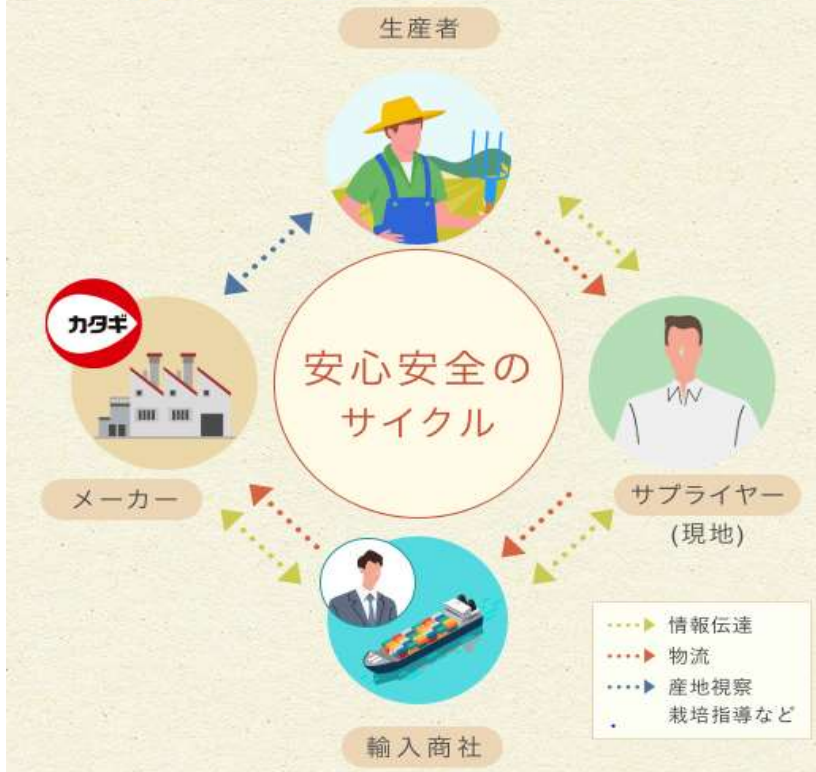
カタギ食品は2001年に有機JAS認証を取得し、業界初の有機ごま製品を発売しました。有機ごまは、消費者の安心・安全や環境保全のみならず、開発途上国で高付加価値を生み出す重要な作物として位置づけられており、持続可能社会の実現に貢献しています。

2022年度も引き続き有機ごまシリーズ家庭用市場シェアNo. 1を持続させます。



商品施策を支える原料調達の基本方針

カタギ食品こだわりの原料調達について



直接産地を訪問し、生産者やサプライヤーとのコミュニケーションを大切にしています。



産地視察

ごまの生育、収穫から出荷に至るまでの状況確認を行います。

栽培指導

品質向上を目的とした栽培指導を継続し高品質な原料を調達しています。



優良品種の選定

専門員による食味評価に基づき、品種選定を行っています。



カタギのサステナビリティ是非ご覧ください。





原料について

【現状】

① ごま種子の生産 - 全世界の生産量は増加傾向

2021/2022年度生産量：約556万トン（出典：Oil World）

- ・生産国での天候問題により、年毎に生産量が増減
- ・労働集約型農業であり、零細且つ貧しい生産者が多数を占める為、生産国での経済発展と共に就農人口が減少する可能性あり。その場合、今後ミャンマーやインド等での生産量減少懸念あり（例：近年における中国の生産量減少）
- ・残留農薬問題が発生しやすい

② ごま種子の需要 - 世界最大のごま輸入国である中国の輸入量増等、需要は増加傾向

世界的な植物たんぱく需要増に伴い、食品ごま、特にねりごまに対する需要も増加中

世界的に需要・供給共に現状では未だ増加傾向。

然しながら、足元では穀物相場上昇に伴い胡麻からの転作や、ミャンマーやスーダン、エチオピアで発生したクーデターや内戦の影響により、供給量ダウンが見込まれている。

生産国の政情不安に加え、天候不順も生産量に大きく影響し、供給面は不安定さを増している。

【調達方針】

高品質の原料を安定的に調達

産地における強い情報力を有する複数商社経由で、安定調達を行う。

短期的には在庫を厚めに保持することで、貨物到着遅延懸念等に対処。

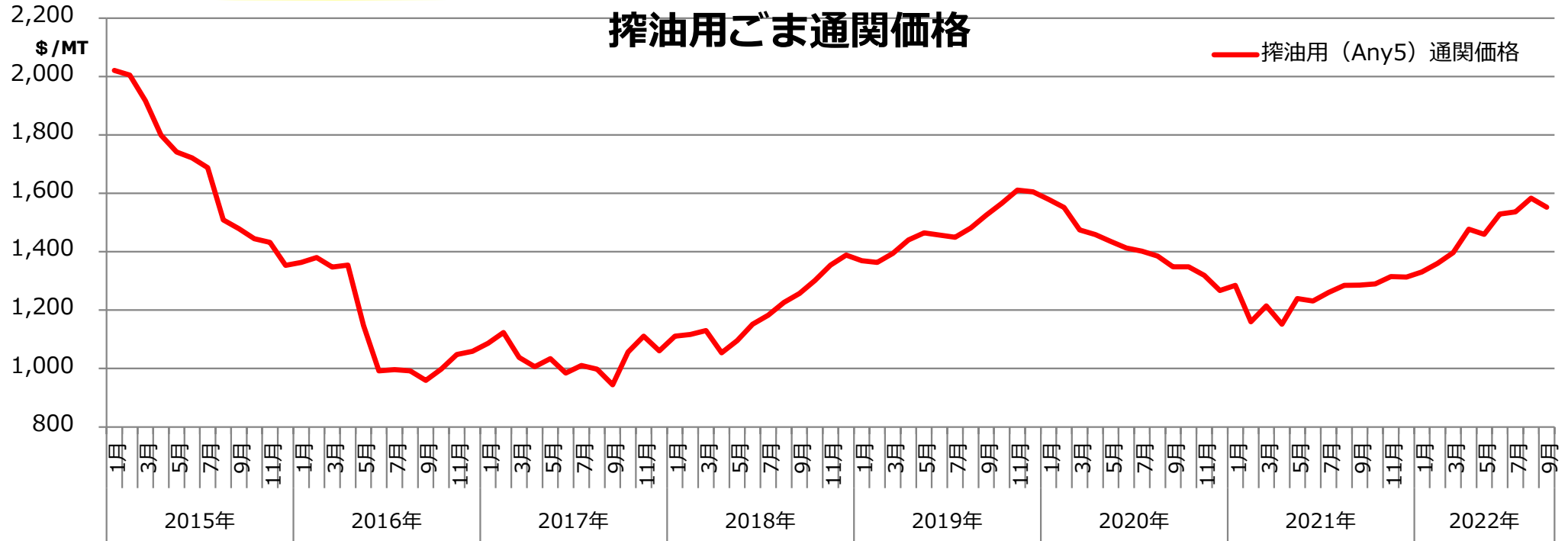
アフリカ、中南米、ミャンマーをはじめとする現地輸出業者との取り組みを強化し、調達先の一層の多様化を進める。



搾油用原料価格の動向（年度平均）

出典 財務省輸入通関統計

搾油用ごま通関価格



<2023年3月期の見通し>

- 2021年夏以降、中国勢の旺盛な買付やごまから他作物への転作、産地における天候不良等、圧倒的にネガティブな情報が多く、マーケットは高止まり。相場はUSD1,550~1,700/Mtのレンジでアップダウンを繰り返している。
- 足元では、今後シーズン最盛期を迎える西アフリカの生産量が減少するとの見込みから、USD1,600/Mtレベルで推移。
- 日本の搾油用輸入平均通関価格は、2021年度のUSD1,252/Mtに対し、2022年1-9月時点でUSD1,470/Mtまで上昇。今後もUSD1,500/Mt以上で成約された貨物の入港は継続すると考えられ、アップダウンはあるものの輸入平均通関価格は緩やかに上昇していくことが見込まれる。
- 供給面では、西アフリカの収穫時期に突入。天候不順による減産が見込まれるが、正確な情報把握にはまだ時間が掛かる。
- 世界的な需要は堅調に推移。中国の輸入量は、2021年度の117万トンに続き、2022年度も110万トン程度を記録する見込みであり、引き続き世界最大規模のバイヤーである。

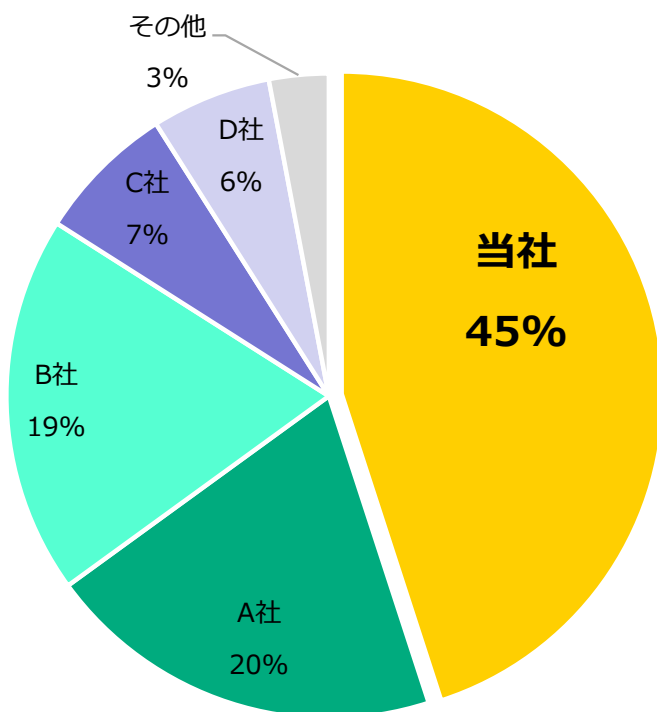
堅調な需要に対し、供給面は政情不安や天候不良等の不安要因が多く、マーケットは堅調推移の可能性が高い。



シェア状況

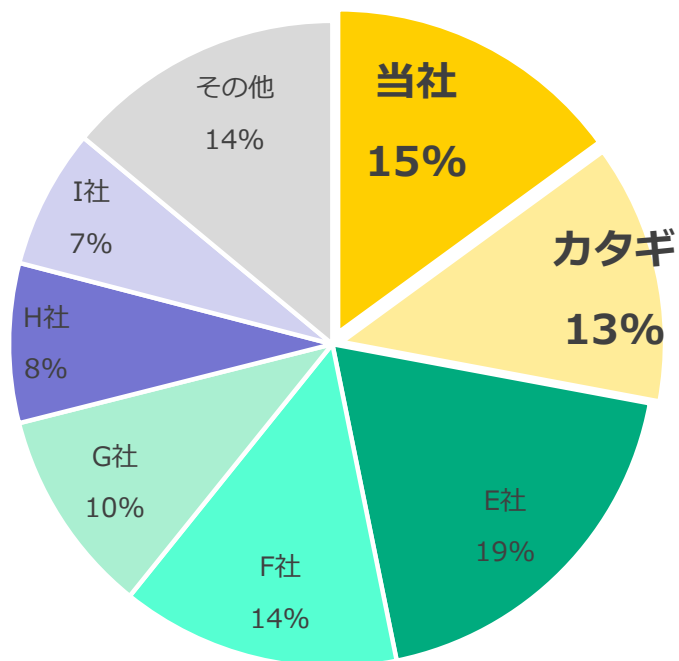
ごま油（2021年1～12月売上高）

市場規模：約440億円



食品ごま（2021年1～12月売上高）

市場規模：約300億円



自社調べ